

第1章 序論

1・1 研究の目的

農山村の集落景観は、経済の高度成長の影響を受けて大きく変わってきたが、今なお伝統的な景観を保持しているところも少なくない。これらの残された景観を保全しようとする動きが最近少しずつではあるが出始めている。しかし、集落景観の一つの構成要素である住宅及び住宅群の景観、すなわち集落の居住地景観は、個々の居住者の要求や意識の違いによって伝統的な景観に調和しない外観を持つ住宅に建て替えられる場合もあるので、その保全は容易ではない。

本研究では、居住者の居住地景観志向を「伝統和風景観」志向型、「現代洋風景観」志向型などの型として把握し、①農山村居住者の居住地景観志向は都市居住者の居住地景観志向に比べてどのような特徴を持つか、②年齢、職業、居住歴など居住者の属性によって居住地景観志向はどのように異なるか、の2点について明らかにし、それらを通じて、農山村の居住地景観が将来とも保全される方向にあるのか、それとも変化する可能性があるかどうかを考察しようとするものである。

本研究では、景観保全に取り組む農山村とそうでない一般的な農山村の比較検討も行なうものであるが、その結果、仮に、景観保全に取り組む農山村が居住者の属性に関係なく「伝統和風景観」を志向することが明らかになれば、景観保全運動の意義が再確認されるであろうし、そうでなければ景観保全のあり方を考え直さなければならなくなる可能性もある。後者の場合は、どのようにすべきか本研究からすぐさま答えが出るものではないが、一般的な農山村の場合も含めて今後の農山村集落の景観保全に関して基礎的な知見を得ることが出来る、という点で意義がある。

1・2 研究の方法

本研究で言う居住地景観とは、住宅群の外形とその周辺の風景を構成要素とする景観であり、住宅群の外形を構成する個々の住宅の外観が居住地景観の重要な構成要素の一つであると考えている。そこで、本研究では、次の方法で居住地景観の志向性を把握しようとしている。すなわち、居住者（被験者）にいくつかの居住地景観の写真（以下、景観写真と言う）と住宅外観の写真（以下、

外観写真と言う)を呈示し、「住みたいと思う」ものを選択させ、因子分析と¹⁾判別分析の多変量解析によって景観写真に対する志向性と外観写真に対する志向性をいくつかの型として把握する。それらの結果を重ね合わせて居住地景観の志向性を考察しようとしている。

具体的な調査内容・方法、分析の手順については、次章以下各章で述べる。